



ふれあい通信

第205回史跡ウォーク

クイズでたどる西国街道

チーム彩

西国街道はどこからどこまでを言うのでしょうか？恵解山古墳に埋葬されたのはどんな人なのか？勝竜寺城は誰が何のために造ったのか？勝竜寺を開いたのは誰か？神足神社の「神足」の語源は？などなど皆さんが疑問と思われることをクイズにしてお待ちしています。ご一緒に考えてみましょう。

また、毎度おなじみの方々には、こんなところをガイドしてほしいとか、あんなガイドはアカンでえとか、みたいなことをいろいろと……。ご意見やご希望、苦言があれば遠慮なくおっしゃってください。



西国街道



恵解山古墳

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



勝竜寺



勝竜寺城公園



神足神社



実施日 六月十五日(日)
受付時間 午前九時～九時三十分
所要時間 約二時間半
集合場所 調子馬ノ池公園(阪急西山天王山駅下車東へ徒歩5分高速道路の下)
コース ①調子馬ノ池公園：②中野家住宅：(西国街道道標)：③恵解山古墳：④老ノ辻三連橋：⑤勝竜寺公園：⑥勝竜寺：⑦勝竜寺城土塁跡：⑧神足神社：⑨神足遺跡：⑩長岡京駅
*チーム彩の会員は8時集合、他のチームの方々は8時半に集合してください。

「御土居の不思議」



老ノ辻三連橋





チム華 富永正治

御土居とは、豊臣秀吉が1591年の1月からわずか4か月で築いた京都の街をぐるっと一周する土塁と外側に掘られた堀のことで、土塁の高さは約5m、堀の深さは約4m、全長は22.5kmもありました。「ブラタモリ」でも何度か取り上げられましたので、ご存じの方も多いと思います。

御土居の目的は、① 賀茂川（鴨川）の氾濫から市街を守る堤防、② 外敵の襲来に備える防塁、③ 惣構（そうがまえ、防衛を目的として城や寺院、城下町の外周を囲った柵や堀、土塁）など諸説ありますが、東辺の賀茂川（鴨川）の氾濫を防ぐ堤防以外いまいとつ目的がはっきりしません。

高さ5mもある土塁が京都を取り囲んでいては往來に不便極まりないと思いますが江戸時代を通じて御土居は大事にされてきました。たとえば1641年の東本願寺の飛地渉成園建設に伴い、敷地にあった御土居は新たに東側に付け替えられています。現在の渉成園の築山や南島と北島は御土居の土塁を再利用したと考えられます。また、建設当初から植えられた竹は競売にかけて希望者に払い下げられ、建築資材や神社の祭札や神事、犯罪者の処刑のための竹柵などにも使われていました。さらに維持管理のために「土居藪之支配」という役人が置かれ、代々角倉家がその役目についていました。

そんなお土居ですが、明治以降、特に昭和に入ると急速に取り壊され、農地や住宅地に変わっていききました。現在、北西部分を中心に9箇所が国指定史跡として保存されています。



渉成園源融供養塔



京都の地味な話

大峰寺の今昔

チム彩 奥西不二

場所は一条通西洞院通上がる、大峰園子町にあります。小さくて注意しないと見逃してしまいます。お寺の跡なので寺らしきものはありません。町内でひっそりと守られている祠のようなものがあります。

平安時代は吉野にある大峰山から分霊された修験道の道場があり、いくつかの坊舎があったと言われています。その後荒廃して役行者ゆかりの石塔があるそうですが外からはみえません。それはまた道長の娘で彰子の妹の妍子が前野で火葬され、その供養塔だとも言われています。万寿四年九月に妍子は亡くなり、49日の法要を法成寺で行われた後の11月に道長も極楽へ旅立ちました。

この説については当時の平安京中で火葬されることがあったのかは疑わしくこの説は何かの間違いではないかという話もあります。一千年前にこの場所でも何があり、何をしていたのか、そして地名にも残された、いろいろな話が聞こえてくるのも京都の歴史の深さを感じさせる場所であると思うところです。



『驚き、桃の木、明治の記』

⑤0 勝海舟(中編②) チーム葵 今川博明

勝海舟と言えば、やはり「江戸無血開城」が有名です。でも、これには複雑な経緯があります。

徳川慶喜は新政府軍の西郷へ、恭順の意を伝えることを高橋泥舟に託します。でも泥舟は慶喜の傍を離れることは危険だと思い、義弟の山岡鉄舟に頼みます。しかし鉄舟は西郷の顔が分らないので海舟を訪ねます。鉄舟は海舟に西郷への書状を見せたあと、西郷のいる駿府に向かいました。

鉄舟と会った西郷は、彼の真摯な態度に対談を受け入れます。

新政府軍からの江戸城総攻撃の回避条件は、7つでした。しかし、この中の「徳川慶喜の身柄を備前藩に預けること」だけは認めるわけにはいかず、押し問答となります。

最後に西郷の心を動かしたのは、鉄舟の「あなたは島津の殿様を差し出して平気でいられますか」という言葉でした。

無事に鉄舟は江戸へ帰り、最後の会談が西郷と海舟とで交わされるのでした。

この会談の様子を書いたのが結城素明の『江戸開城談判』であり、聖徳記念絵画館にあります。そしてこの絵が教科書にも掲載されたことから一躍有名になったみたいです。最後に海舟と慶喜の仲ですが、第2次長州征伐のあとに海舟は慶喜に、はしごを外されたころから仲が悪くなります。

しかし徳川政権が崩壊したことにより、海舟と慶喜の間にあった軋轢は解消され、後年、慶喜の10男「徳川精」(とくがわくわし)が勝家の婿養子となっています。

海舟は享年75歳、慶喜は享年76歳で、ほぼ同じくらい生きたようです。

開幕二日目の万博に行ってきた

チーム都 今井 満

大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158の国と地域、7つの国際機関が、大阪の人工島、夢洲を会場に4月13日から開かれました。

はつきり云って老人泣かせ、昨年開幕券400円の購入に2時間かけて予約し、入場日の予約でも1時間悪戦苦闘した上に、JR桜島駅から西ゲート行のバス予約は、2時間かけても登録できなかった。

ただ案ずるよりも産むが易しで、イコカですんなりバスに乗り込み、西ゲートの荷物検査も10分で入場できた。

パピリオンで予約できたのが、10時のオーストラリアだけ、それまでの間は予約なしのエジプトなど数か国に入館した。そして昼前に訪れた宴(特設会場)では、小腹がすいたタイミングで、運よく熊本赤鶏の試食があり、おまけにクマモンの小袋をお土産で頂いた。

同じころ西ゲートでは、80歳入場者の爆発物持ち込み発言で、避難騒ぎがあったのを後で知った。

その後、飲食店を廻ったが、プライスに納得いかず、持ち込んだお握りをベンチでいただく、休憩場所やトイレは案外多い。

その後、5時ごろから強風と雨で家路に急ぐ人が増えたこともあって朝9時から夜9時までの滞在で25のパピリオンに入館できた。

お勧めは、中国館の三星堆の青銅器・アメリカ館ロケット発射台の下からの映像は迫力がある。・スペインの支倉常長の航路などは、歴史的な価値がある。あと工事でインドやブラジルなどは入館できず。あとパナソニック館が閉園前の9時では終了で入館できなかった。それとリング上の飛蚊が残念だった。

山の思い出

チーム葵 澤田 卓

若いころは、山に嵌っていました。要は色々なところに興味があり、見たい。行きたい。食べたい。などと、思うものの金銭的にそれらは許されず、勤務先の厚生会にあるテントを借りて家族で海や高原でいかに安価に遊び、家族を喜ばすかという考えから始まったものです。というか本人が一番喜んでいたりと思います。そして山岳テント、シュラフやバーナー、コップフェルを借りれば山にも行けると気付きました。

従って、山小屋に泊まったことは、嫁さんが付いてきた白山の山小屋と、後立山縦走中に豪雨となり、宿泊のみの経験しかないというか、大変楽しい山歩きの私です。

しかし、テント泊は心細いものの好天に恵まれると、天然のクーラーの中で清々しい夜明けも迎え、山大好き病になることを受け合います。

若くイケイケ時代の私がソロで南アルプスの仙丈岳頂上で見た早朝の絶景で、奥に本邦最高峰の富士山と手前にNo.2北岳のツーショットです。頃は10月、仙丈岳カールにある山小屋も閉鎖され積雪対策を施していた。夜が明け始めた下界はダケカンバが黄葉に輝き始め、頂上には私一人が絶景を独り占め。

こうして人々は山の魅力に取りつかれるのだらう。昨日に登った甲斐駒ヶ岳の荒々しい絶景も忘れ難いが、優雅な裾野を広げる富士山、優雅に見えながら一面に絶壁のバットレスを持ち、それでいてここにしかない可憐なキタダケソウを育む北岳。また北岳から南への白根三山縦走もパノラマビューを満喫できて今でも心に残る大切な思い出です。

いけばな資料館見学

チーム雅 京極文雄

六角堂（頂法寺）は初代住職の専務（遣隋使の小野妹子）から45世専永、次期家元専好に続きます。縁起では聖徳太子が最初に建てた伽藍で「池にちなんで僧の住居を「池坊」と名付けた」とあり、現在も続く華道の家元「池坊」は六角堂の住職でもあります。

4月のある週末に会員有志の方々と六角堂内の「いけばな資料館」を參觀してきました。華道として「立花」様式を大成させた池坊専好（2代目）と寛永時代の宮中サロンで後水尾天皇が好んで開催した立花会の資料「紫宸殿立花会席割指図（立花会の花席）」や「立花図屏風」など、華やかさを感じられる資料や画。立花とは？が理解できる解説版を見ることができました。参加者には質の高い文化の香りに包まれていただけたかと思えます。

今回の見学内容は6月22日の会員研修でも説明します。興味のある方はご参加ください。



第204回史跡ウォークを終えて

『出水七不思議と北野七保を訪ねる』

チーム雅 秋房 麻理

当日は雨予報が一転して晴天となり、むしろ熱中症を心配しないといけない陽気となりました。104名の参加者をお迎えして、28名の会員の出席で無事に終了することができました。ご参加いただいた皆様、ガイドおよび受付その他会場整理等にご尽力いただきました会員各位に厚く御礼申し上げます。

今回のテーマは、「出水七不思議」と「北野七保」という一般にはあまり知られていないところを訪ね、それらの史跡がそこにある背景も含めてご案内するというものでした。隠れた史跡を掘り下げて紹介するという当協会のポリシーと合致して、この2つのテーマにまつわる史跡をご案内できたことはよかったと思います。参加者の皆様からも「今回のウォークで初めて知った」というお声もいろいろいただきました。また、企画したチームとして準備する中でもこれらのテーマが奥の深い内容であり、自らの知見も大きく広がりました。コースは距離が延びるので、最後北野天満宮境内に移った北野七保の各社のご案内は希望者のみといたしました。半数以上の方がご案内を希望されたのは、史跡やテーマに寄せられる皆様の関心の高さの現れだと思います。

その一方で、伝説にまつわる史跡という性格や、歴史の転機で失われてしまつて、「かつてはあったが今はなくなっている」というものが多く、実際下見と本番の聞のわずかな時間ですら状況が変わつてしまつていたもの（華光寺の時雨松の根がなくなっていた）もあり、隠れた史跡もど雅どん失われてしまう

ことも感じました。

京都のように歴史が重層的に重なった地域には、さまざまな観点の史跡が同一地域に集中しています。これからも参加される皆様の関心や興味に沿った内容で、地域の歴史や魅力を再発見していただけるようなウォークを考えていきたいと思っています。



生成AIを駆使したユニークな資料を使ってご案内された班もありました。
（出水七不思議『浮かれ猫の絵馬』）



北野天満宮境内に移された一之保神社